AgileWorks R3

外部マスタ(標準)ガイド

R3.3 第1版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. 外部マスタ(標準)について 4
1.1. 外部マスタ(標準)とは 4
1.2. 外部マスタ(標準)の作成方法 5
2. 外部マスタ(標準)の作成 6
2.1. 管理サイト上で新規作成 6
外部マスタ(標準)の設定値 7
列項目の設定値 7
列項目の型とブロック数 9
2.2. 列項目を設定する際のポイント 9
3. 定義ファイルのエクスポートとインポート 10
3.1. 定義ファイルのエクスポート 10
3.2. 定義ファイルのインポート 11
3.3. 定義ファイルに関する注意事項 12
マスタデータの定義ファイルは編集不可 12
インポートしようとしている外部マスタ(標準)が既に対象環境に存在する場合 12
4. マスタデータの登録 13
4.1. 管理サイト上で入力して登録 13
4.2. データの確認と編集 14
5. データのエクスポートとインポート 15
5.1. データ準備 15
5.2. データのエクスポート 16
5.3. データのインポート 17
5.4. CSV ファイルの取込形式について 18
全件取込でのインポート 18
差分取込でのインポート 18
5.5. インポート結果の確認 19
実行状況・実行結果の詳細確認 19
6. 外部マスタ(標準)の用途 21
7. 制限事項 21
7.1. 管理サイト以外からの操作について 21
公開 API からの操作について 21
データベースに直接接続しての操作について 21

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. 外部マスタ(標準)について

この章では、AgileWorks の外部マスタ(標準)について説明します。

1.1. 外部マスタ(標準)とは

外部マスタ(標準)とは、フォームに利用したい任意のデータをマスタとして AgileWorks に保持する機能です。
データ自体はデータベースに記録されますが、ユーザーはデータベースの仕組みを意識せずに利用することができます。

フォームのマスタ参照やコンボボックスに外部マスタ(標準)を利用することによって、フォーム自体を修正することなく、マスタ参照やコンボボックスの選択肢を変更できるようになります。

▼外部マスタ(標準)を利用している場合と利用していない場合の手順差異
例）交通手段を選択するコンボボックスが存在するフォームにて、交通手段の選択肢として”飛行機”を追加したい
＜コンボボックスに直接選択肢を指定している場合＞
以下の手順が必要となります。
1) フォームをダウンロード
2) コンボボックスの選択肢に”飛行機”を追加
3) フォームを修正アップロード

＜外部マスタ(標準)を利用している場合＞
以下の手順となります。
1) 利用している外部マスタ(標準)のデータに”飛行機”を追加

▼マスタ参照の画面イメージ



1.2. 外部マスタ(標準)の作成方法

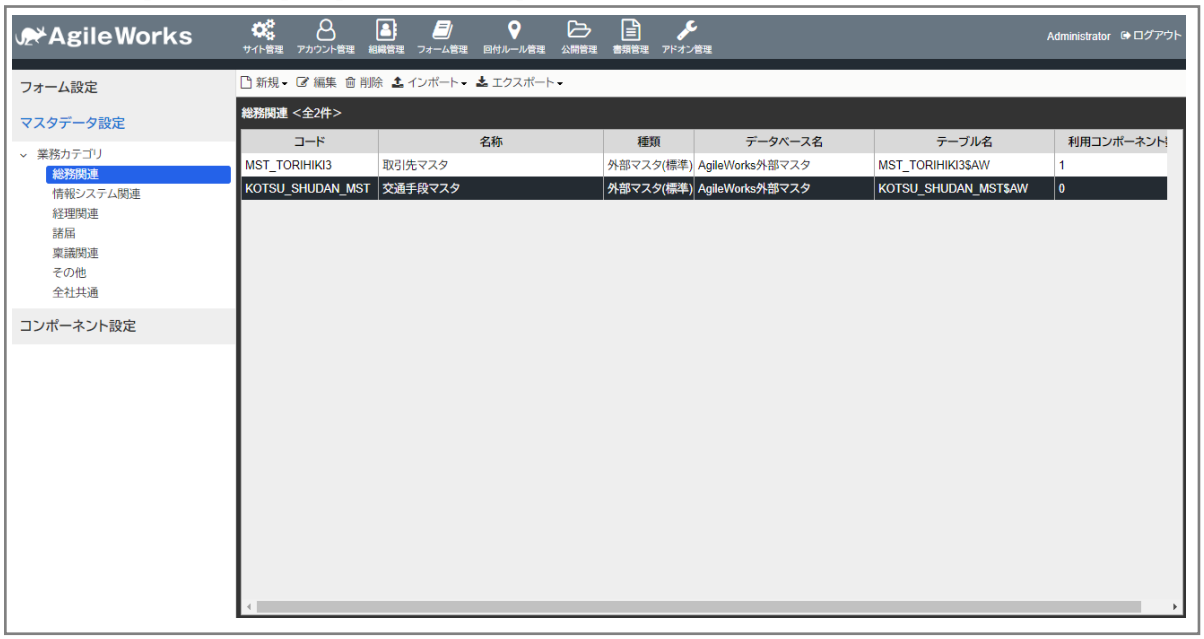
外部マスタ(標準)の利用には「外部マスタ(標準)の作成」と「マスタデータの登録」を以下の画面から行います。

【マスタデータ設定】では外部マスタ(標準)以外にも以下のマスタデータを利用することができます。それぞれの詳細、利用方法は参考箇所をご確認ください。

▼AgileWorks で利用できるマスタデータ

種類	説明	参考箇所
外部マスタ	外部マスタ(標準)よりも規模の大きいデータを扱う場合に利用します。	別紙「Aw11-外部マスタ(拡張)ガイド」
フォーム	AgileWorks で作成された書類のデータを利用します。	別紙「Aw05-フォーム設計・作成」の「マスタデータの種類」
組織系マスタ	AgileWorks に登録されている組織関係のデータを利用します。	別紙「Aw05-フォーム設計・作成」の「マスタデータの種類」

▼管理サイト【フォーム管理】→【マスタデータ設定】



2. 外部マスタ(標準)の作成

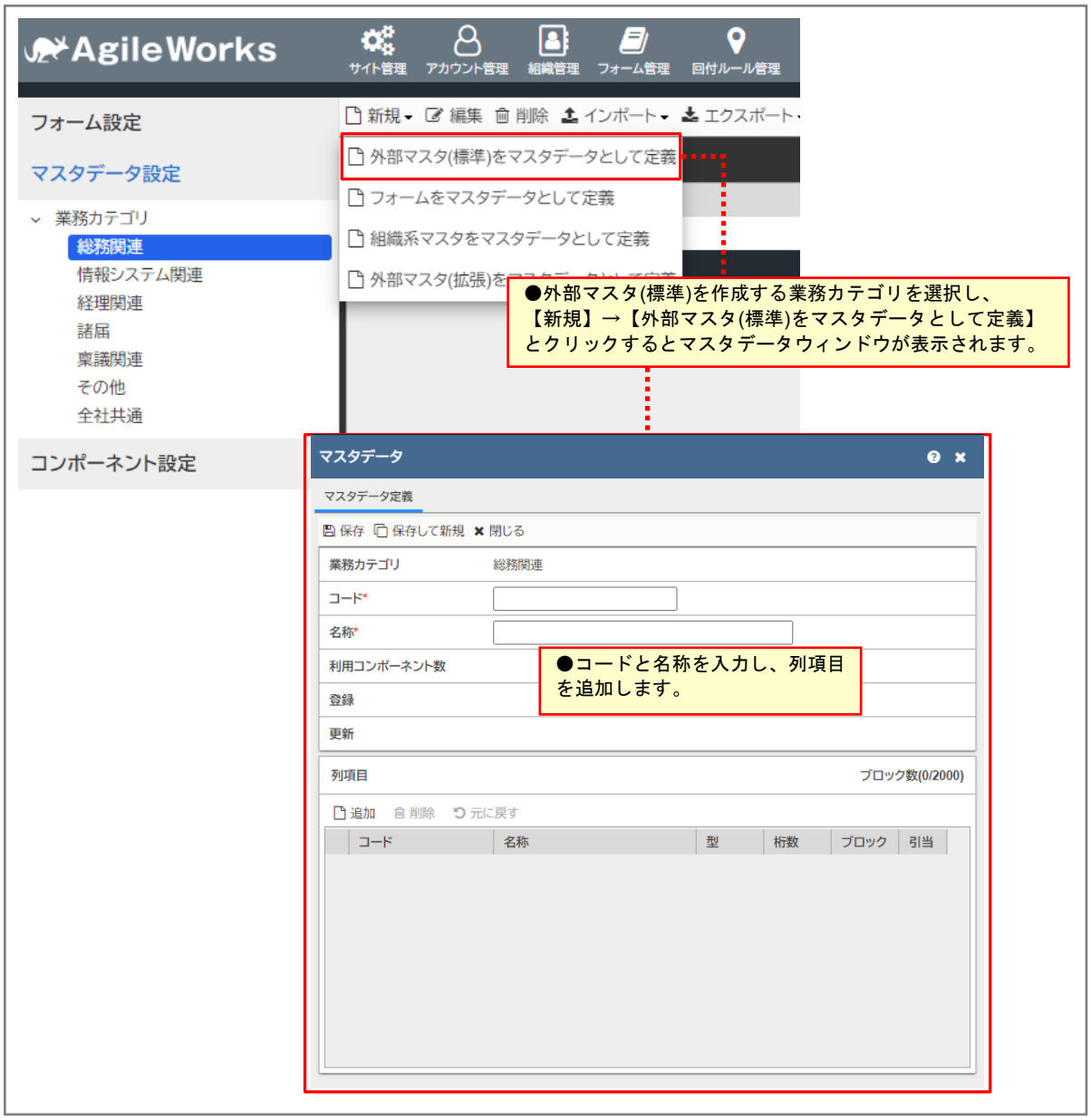
外部マスタ(標準)の作成はマスタデータ定義を設定する必要があります。
このマスタデータ定義は管理サイトにて「入力する」または「定義ファイルをインポートする」ことで設定できます。

本章では、管理サイト上でマスタデータ定義を入力する方法を説明します。
定義ファイルをインポートする方法は「定義ファイルのエクスポートとインポート」を参照ください。

2.1. 管理サイト上で新規作成

外部マスタ(標準)のマスタデータ定義を入力する方法を説明します。

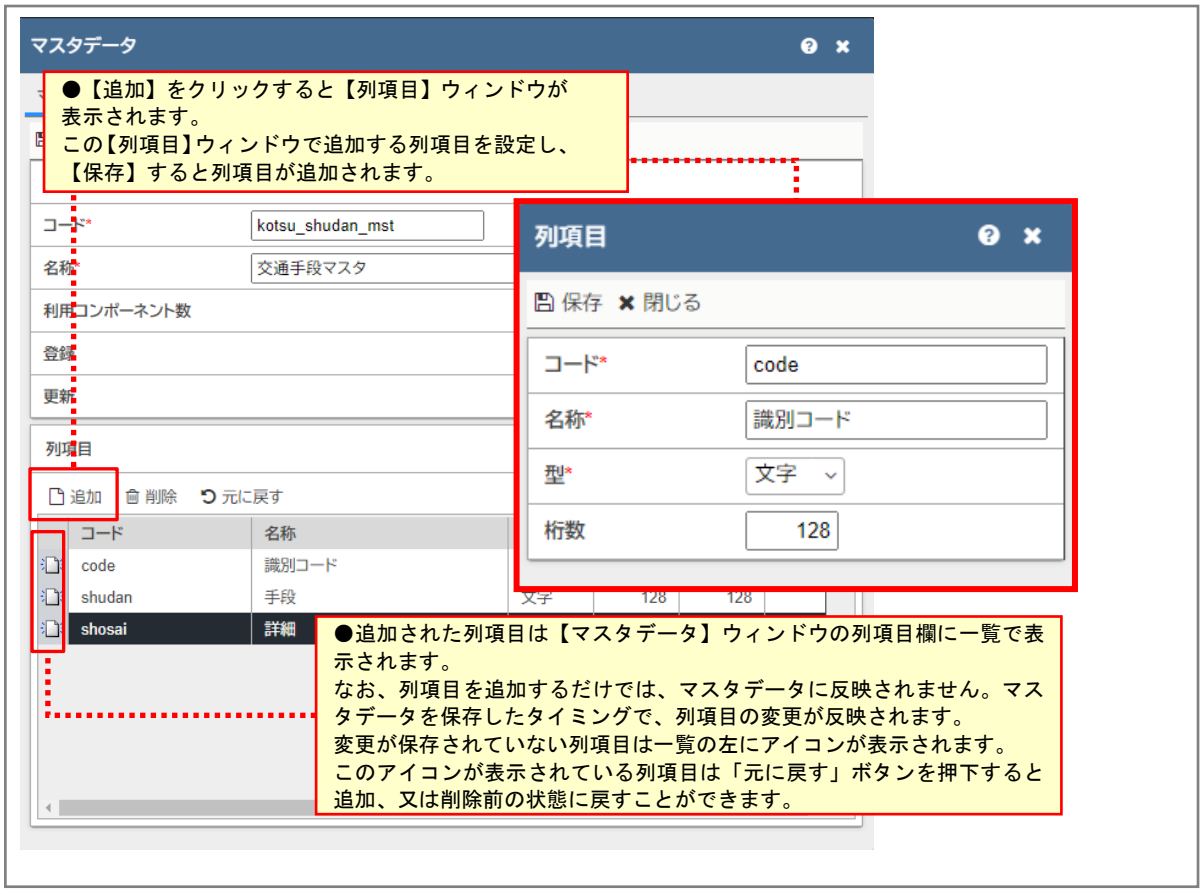
▼管理サイト【フォーム管理】→【マスタデータ設定】から【マスタデータ】ウィンドウを表示し、
コードと名称を入力します。



外部マスタ(標準)の設定値

設定値	説明
業務カテゴリ	外部マスタ(標準)を作成する業務カテゴリ
コード	外部マスタ(標準)を識別するコード。 このコードは外部マスタ(標準)内で一意である必要があります。 英数字、_(アンダーバー)が利用できます。(先頭文字は英字のみ)
名称	外部マスタ(標準)の名称。
列項目	外部マスタ(標準)に利用する項目を設定します。 1 つ目に定義した列項目は引当項目になります。 引当項目以外は外部マスタ(標準)の作成後も追加・削除することができます。 1 外部マスタ(標準)あたり 1000 まで列項目を定義できます。

▼列項目は以下のように追加します。



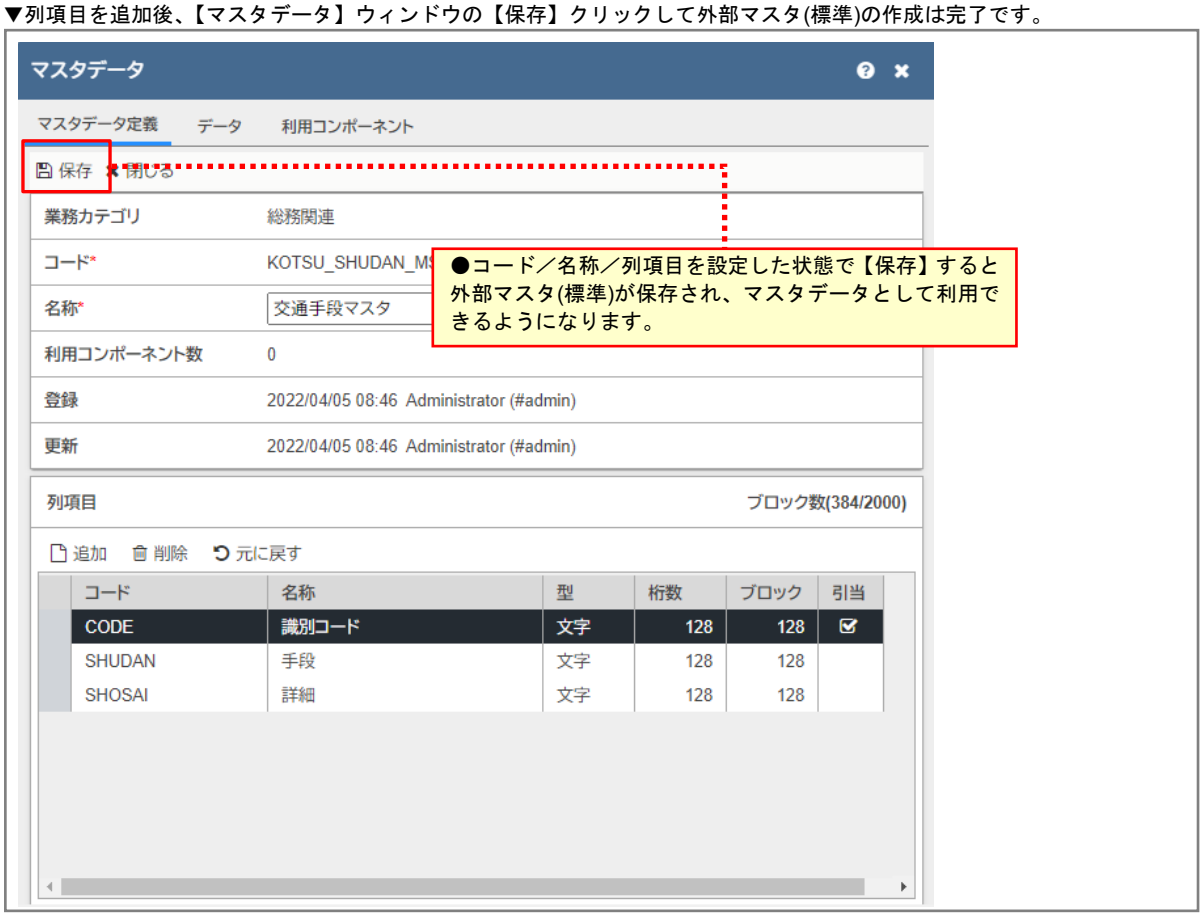
列項目の設定値

設定値	説明
コード	列項目を識別するコード。対象の外部マスタ(標準)全体で一意である必要があります。 英数字、_(アンダーバー)が利用できます。(先頭文字は英字のみ) ※Oracle の場合は「大文字」MySQL／SQLServer の場合は「小文字」を利用してください。
名称	列項目の名称。
型	列項目の型。(※1) 以下の何れかを設定します。 「文字／整数(小数なし)／数値(小数あり)」
桁数	列項目の型に「文字」選択した場合に設定します。 登録可能な文字数を設定します。 初期値は「128」最大「255」まで設定できます。
ブロック数	ブロック数とは、1 つの外部マスタ(標準)が利用しているデータ量です。 この項目は 1 つの外部マスタ(標準)内の列項目数に依存します。(※2) 1 つの外部マスタ(標準)で利用できるブロック数は 2000 までです。(※3)

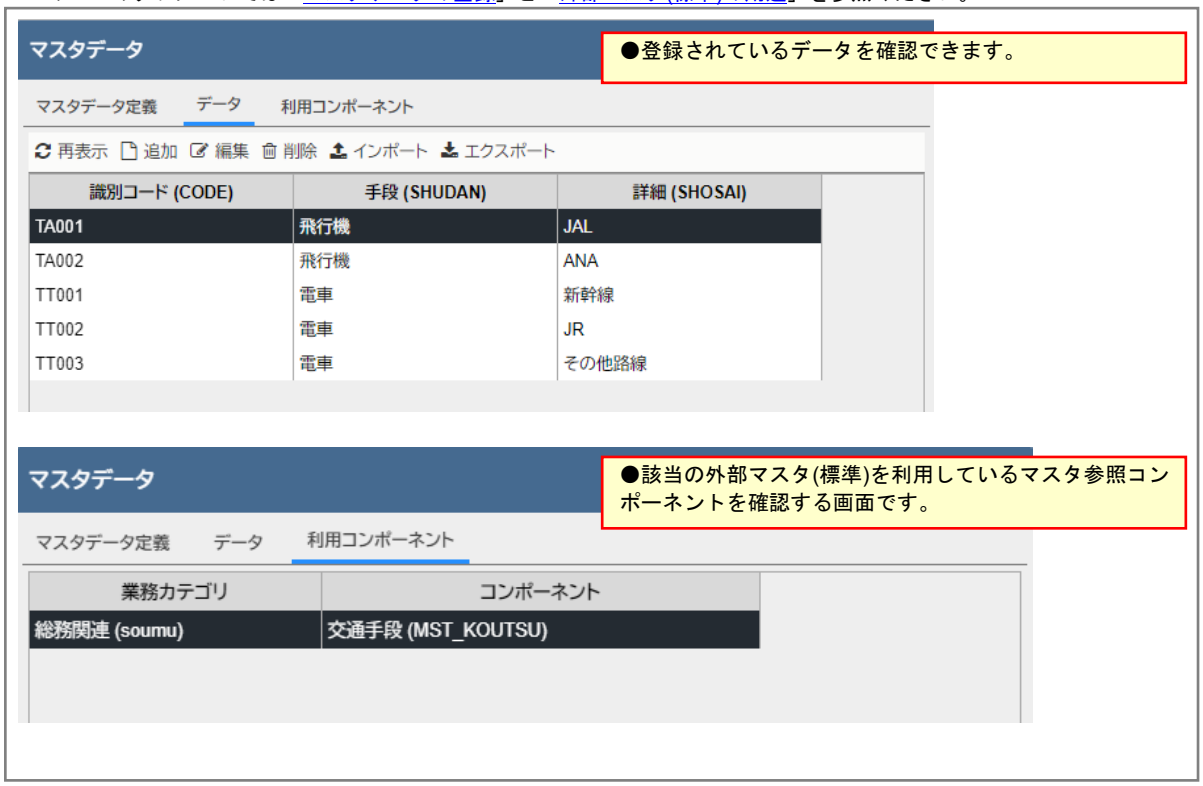
引当	外部マスタ(標準)のデータを一意に識別する引当項目かどうかを表示します。 初めに追加した列項目が自動的に引当項目に設定されます。 詳細は「列項目を設定する際のポイント」を参照ください。

※1：一度外部マスタ(標準)を保存すると変更することができません。変更したい場合は新しく列項目を追加してください。
※2：列項目の型・桁数から自動で計算されます。
※3：各列項目が利用するブロック数は「列項目の型とブロック数」を参照ください。

▼列項目を追加後、【マスタデータ】ウィンドウの【保存】クリックして外部マスタ(標準)の作成は完了です。



▼保存後、【マスタデータ】ウィンドウに【データ】タブと【利用コンポーネント】タブが表示されるようになります。
この２つのタブについては「マスタデータの登録」と「外部マスタ(標準)の用途」を参照ください。



列項目の型とブロック数

外部マスタ(標準)で利用できる型は全部で 4 つあり、用途によって使い分けることができます。
また、外部マスタ(標準)には 1 外部マスタ(標準)あたり利用するブロック数が 2000 と決められています。
このブロック数は各列項目の型と桁数によって決まります。

▼型毎の桁数とブロック数

型	桁数指定	入力可能桁数	ブロック数	用途・特性
文字	1 ~ 255 の整数を指定	255 文字	指定した桁数 ＝ 利用ブロック数	255 文字までの文字列を扱います。 桁数を指定しない場合は 128 桁に自動設定されます。
数値(小数なし)	ー	9 桁	2(固定)	小数点以下を含まない整数を利用できます。 桁数の指定はできません。
数値(小数あり)	ー	15 桁 (小数点以下を含む)	2(固定)	小数点以下を含んだ数値を利用できます。 桁数の指定はできません。

記載されている桁数以上、又は 1 レコードのデータが 2000 文字を超える場合は【外部マスタ(拡張)】をご利用ください。
【外部マスタ(拡張)】の詳細は別紙「Aw12-外部マスタ(拡張)ガイド」を参照ください。

2.2. 列項目を設定する際のポイント

1 つの外部マスタ(標準)に定義する列項目の内、1 つ目(一番上)の列項目は、データを一意に識別するキーとして利用します。
その為、外部マスタ(標準)を作成すると削除することができませんが、外部マスタ(標準)データを管理し易くなります。

例えば、交通手段とその詳細を外部マスタ(標準)に登録したい場合、以下のように作成します。

▼NG パターン：引当項目のデータが重複してしまう

	列項目	
	交通手段(引当項目)	詳細
データ	飛行機	JAL
	飛行機	ANA
	電車	新幹線
	電車	JR
	電車	その他路線

▼OK パターン：引当項目として識別番号を用意することで「交通手段」と「詳細」のセットが一意になる

	列項目		
	識別番号(引当項目)	交通手段	詳細
データ	TA001	飛行機	JAL
	TA002	飛行機	ANA
	TT001	電車	新幹線
	TT002	電車	JR
	TT003	電車	その他路線

3. 定義ファイルのエクスポートとインポート

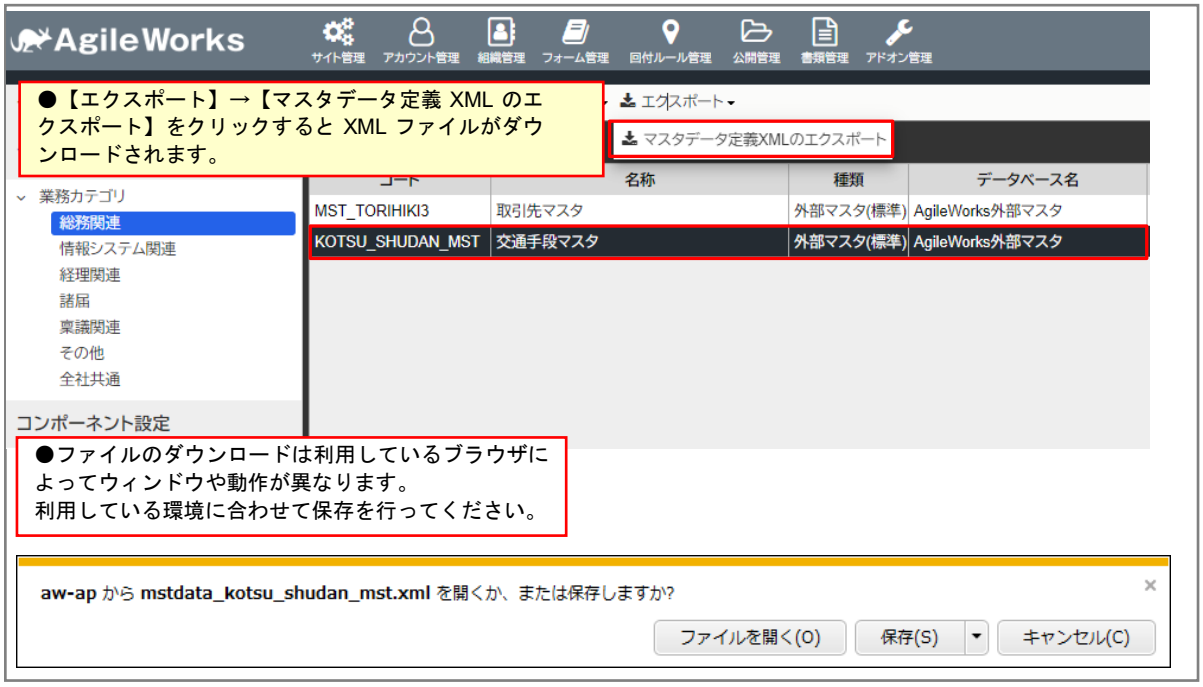
外部マスタ(標準)は、コードや名称、列項目などの定義情報を XML ファイルとしてエクスポートすることが出来ます。
エクスポートした定義ファイルをインポートすることで別の環境に同じ定義の外部マスタ(標準)を作成することができます。
また、外部マスタ(標準)のマスタデータ定義のバックアップとしても利用できます。

外部マスタの定義ファイルは異なるデータベース間でのインポート/エクスポートはできません。
MySQL 環境でエクスポートした定義ファイルは MySQL 環境のみ、OracleDatabase 環境でエクスポートした定義ファイルは OracleDatabase 環境にのみインポート可能です。

3.1. 定義ファイルのエクスポート

まずは以下の画面から定義ファイルのエクスポートを行います。

▼管理サイト【フォーム管理】→【マスタデータ設定】にて定義ファイルをエクスポートしたい外部マスタ(標準)を選択し
定義ファイルをダウンロードします。



3.2.　定義ファイルのインポート

定義ファイルのエクスポートと同じ画面から定義ファイルのインポートを行います。

▼管理サイト【フォーム管理】→【マスタデータ設定】にてインポートする業務カテゴリを選択した状態で
　定義ファイルをインポートします。



3.3.　定義ファイルに関する注意事項

マスタデータの定義ファイルの編集やインポートに関して、以下のような注意が必要です。

マスタデータの定義ファイルは編集不可

エクスポートしたマスタデータの定義ファイルを編集すると定義ファイルのインポートに失敗してしまいます。
編集した定義ファイルを編集し､保存してしまうと本来の定義ファイルの内容に戻せなくなり再度エクスポートする必要があります。

インポートしようとしている外部マスタ(標準)が既に対象環境に存在する場合

外部マスタ(標準)はユーザーが設定した「コード」によってシステム内で識別されます。
その為、インポートしようとしている外部マスタ(標準)の「コード」と同じ「コード」の外部マスタ(標準)が、対象環境に存在する場合、元々存在していた外部マスタ(標準)の定義がインポートした外部マスタ(標準)の定義に上書きされてしまいます。
上書きされ、列項目の定義も変更されると、存在していたデータが無くなる可能性があります。

例）外部マスタ(標準)のコードは同じだが、列項目などが異なる場合。

▼インポート前の状態

設定値	インポート定義ファイル	既存の外部マスタ(標準) (インポート前)	既存の外部マスタ(標準) (インポート後)
コード	simple_mst_001	simple_mst_001	simple_mst_001
名称	外部マスタ(標準)001	シンプルマスタ 001	外部マスタ(標準)001
列項目(名称/コード)	識別番号 / id 交通手段 / plan	センターID / id 建物名称 / name 備考 / remarks	識別番号/id ~~建物名称 / name~~(削除) ~~備考 / remarks~~(削除) 交通手段/plan

上記の場合、インポート前の状態から以下の点が変更されます。

- 外部マスタ(標準)の名称
- 列項目の名称
- 列項目の削除
  ※登録されていたデータも削除されます。
- 列項目の追加

4. マスタデータの登録

外部マスタへのデータ登録には以下の方法があります。

- 管理サイト上で入力して登録
- CSV ファイルをインポートして登録

この章では管理サイト上で直接データを入力する方法を説明します。
CSV ファイルのインポートは「データのエクスポートとインポート」を参照ください。

4.1. 管理サイト上で入力して登録

データを登録したい外部マスタ(標準)データの【編集】から、外部マスタ(標準)のデータを登録します。

▼管理サイト【フォーム管理】→【マスタデータ設定】画面にてデータを登録したい外部マスタ(標準)を編集し、データの登録を行います。



4.2. データの確認と編集

登録したデータは【マスタデータ】ウィンドウの【データ】タブで確認でき、各データの編集と削除を行うことができます。

▼操作したいデータを選択した状態で、【編集】又は【削除】をクリックします。



5. データのエクスポートとインポート

管理サイトの画面上での入力とは別に、外部マスタ(標準)データが入力されている CSV ファイルをインポートすることでデータを登録することができます。

5.1. データ準備

インポートに利用する CSV ファイルは以下の形式で作成してください。

▼CSV ファイルに関して

形式	説明
拡張子	可変長テキスト形式の CSV ファイル
文字コード	MS932(Shift_JIS 拡張) ※UTF-8 を利用したい場合は【外部マスタ(拡張)】を利用してください。 詳細は別紙「Aw12-外部マスタ(拡張)ガイド」を参照ください。
区切り文字	カンマ「,」(半角) 書類に利用するデータ内にカンマが存在する場合は、項目の前後を半角のダブルクォーテーション「"」で囲む事によって利用できます。 ※カンマが存在しない場合でも囲んでも構いません。 ※シングルクォーテーション「'」で囲んでも「,」は利用できません。 ダブルクォーテーション「"」を利用してください。
囲み文字	ダブルクォーテーション「"」(半角) 書類に利用するデータ内に「"」が存在する場合は、項目の前後を半角の「"」で囲み、 且つデータに利用したい「"」を 2 重に入力することで利用できます。 ※例）文字列「aaaa"bbbb」 > CSV データ上の入力内容「,"aaaa""bbbb",」
改行コード	「CR+LF／LF／CR」の 3 種類を改行として認識します。
1 行目の扱い (列項目の順番)	1 行目をヘッダー行として、ヘッダー項目に列項目のコードを指定します。 1 行目のヘッダー項目と列項目のコードが一致する場合、対象カラムにデータの書込を行ないます。
重複データ	引当項目の入力値は一意である必要があります。 重複している場合は、CSV ファイル内で後ろ(下の行)のデータが反映されます。

例）
〇『1,20100401,20110331,test,あいうえお』
〇『"1", "20100401", "20110331", "test", "あいうえお"』

▼『あいう,えお』が 1 つのデータ項目の場合
×『1,20100401,20110331,test,あいう,えお』
〇『1,20100401,20110331,test,"あいう,えお"』

上記の形式で 1 から CSV ファイルを作成することもできますが、既に上記の形式となっている CSV ファイルをエクスポートすることもできます。

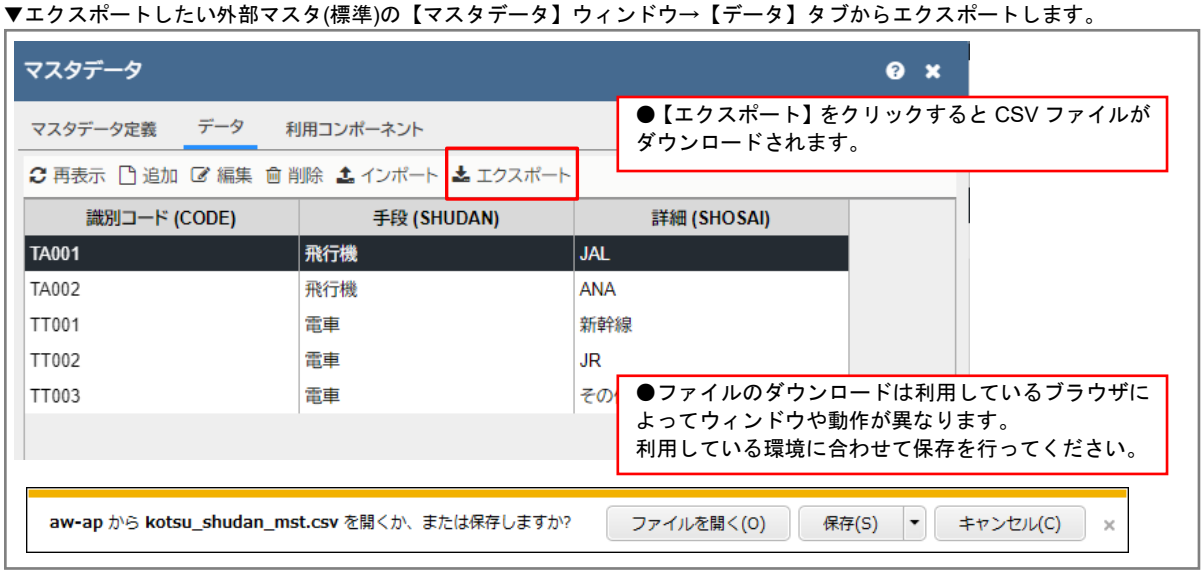
5.2. データのエクスポート

外部マスタ(標準)のデータは、CSV ファイル形式にエクスポートすることができます。
エクスポートした CSV ファイルのデータ内容はユーザーが変更することもできます。

▼エクスポートした CSV ファイルの利用用途

用途	利用例
インポート時に利用する CSV ファイルのテンプレート	既存データの更新や、新規作成した外部マスタ(標準)に対して初めてデータをインポートする際にエクスポートした CSV ファイルを編集してインポートする など
既存データのバックアップ	データを誤って更新してしまった際の切り戻し など

▼エクスポートしたい外部マスタ(標準)の【マスタデータ】ウィンドウ→【データ】タブからエクスポートします。



5.3. データのインポート

外部マスタ(標準)のデータインポート時には以下の項目を設定します。2 種類の実行モードがあります。

▼インポート時の設定項目

項目	説明
CSV ファイル	インポートする CSV ファイルを指定します。
取込形式	【全件取込】と【差分取込】の 2 種類があります。 【全件取込】 対象の外部マスタ(標準)の全データを CSV ファイル内のデータに置き換えます。 【差分取込】 外部マスタ(標準)の 1 つ目の列項目を引き当てキーとして、データを更新します。 取込形式の詳細は「CSV ファイルの取込形式について」を参照ください。
実行モード	【本番実行】と【リハーサル実行】の 2 種類があります。 【本番実行】 対象の外部マスタ(標準)に CSV ファイルのデータを反映します。 【リハーサル実行】 CSV ファイルを読み込んで、入力チェックだけを行なうモードです。 入力チェック結果をログ出力し、データ書込は行ないません。 CSV データの検証を行う場合に利用します。

▼インポートしたい外部マスタ(標準)の【マスタデータ】ウィンドウ→【データ】タブからインポートします。



CSV ファイルインポートの実行結果の確認は「インポート結果の確認」を参照ください。

5.4. CSV ファイルの取込形式について

CSV ファイルをインポートする際に指定する【取込形式】によって、インポートの処理は大きく変わります。
特に差分取込の場合は【引当項目】が重要になりますので、以下の例を確認の上実行してください。

全件取込でのインポート

全件モードでのインポートは、対象の外部マスタ(標準)内のデータを全て削除し、CSV ファイル内のデータを登録します。
そのため、既存のデータは全て削除されます。

差分取込でのインポート

差分モードでのインポートは外部マスタ(標準)に定義されている列項目の内、1 つ目(1 番上)の列項目を引き当てキーとして、データを更新します。

▼対象の外部マスタ(標準)のデータ

	列項目		
	識別番号(引当項目)	交通手段	詳細
データ	TA001	飛行機	JAL
	TA002	飛行機	ANA
	TT001	電車	新幹線
	TT002	電車	JR
	TT003	電車	その他路線

上記データの「TT003／電車／その他路線」を詳細に分割するために以下のデータをインポートします。

▼差分モードでインポートするデータ

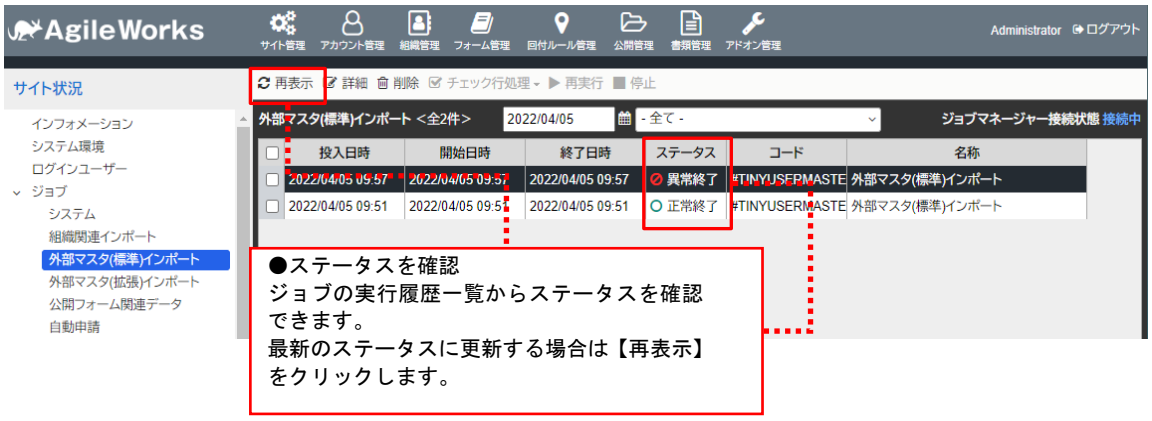
	列項目		
	識別番号(引当項目)	交通手段	詳細
データ	TT003(更新)	電車	使用禁止(旧その他路線)
	TT004(追加)	電車	東急電鉄系
	TT005(追加)	電車	小田急
	TT006(追加)	電車	京王電鉄

「TT003」のデータを更新し、新しく「TT004～006」を追加する。

5.5.　インポート結果の確認

外部マスタ(標準)へのデータインポートは AgileWorks のシステムジョブ【外部マスタ(標準)インポートジョブ】を利用して実行しているため、システムジョブの実行履歴からインポート結果を確認することが出来ます。

▼管理サイト【サイト管理】→【サイト状況】→【ジョブ】→【外部マスタ(標準)インポート】



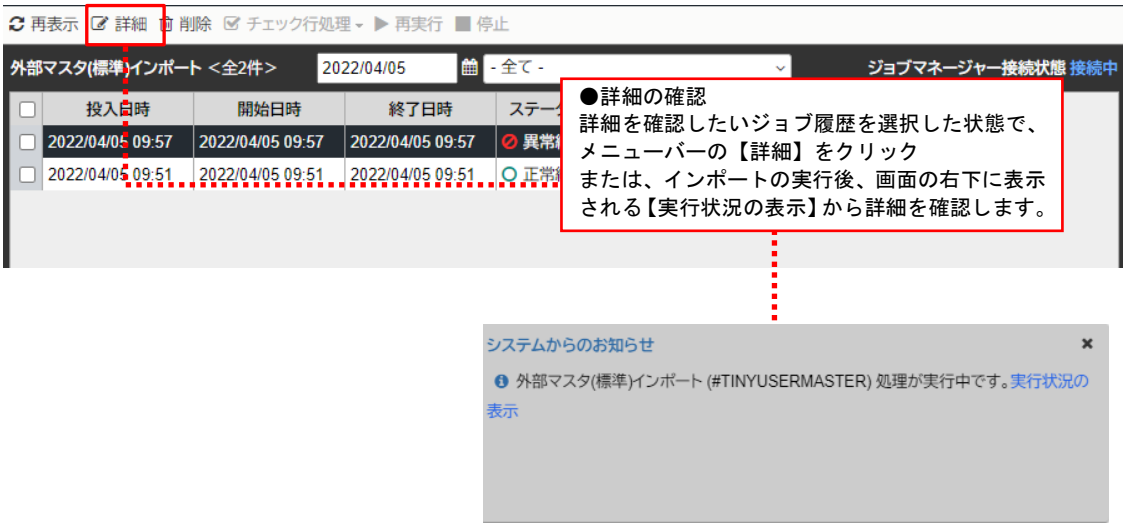
ジョブのステータス

ステータス	説明
実行中	インポートジョブの実行中です。 実際に処理されている、又は前のジョブの完了を待機している状態です。
正常終了	インポートジョブは正常に終了しました。
異常終了	インポートジョブにエラーが発生しました。 【詳細】から状況を確認してください。
中断	何らかの原因でジョブが中断された状態です。 【詳細】から状況を確認してください。

実行状況・実行結果の詳細確認

外部マスタ(標準)へのデータインポートの実行状況・実行結果の詳細は以下のどちらかから確認します。
・管理サイト【サイト管理】→【サイト状況】→【ジョブ】→【外部マスタ(標準)インポート】
・実行後に表示される【システムからのお知らせ】→【実行状況の表示】

▼管理サイト【サイト管理】→【サイト状況】→【ジョブ】→【外部マスタ(標準)インポート】)



▼詳細の確認



●ジョブの詳細ログを確認することができます。

上の例：正常終了
下の例：4 行目の項目数がテーブルと一致せず
異常終了

インポートの処理順序について
外部マスタ(標準)インポートジョブは実行された順番に処理されます。
既にジョブが実行されている状態で別のジョブを実行した場合、先のジョブの終了後、後続のジョブを処理します。
並列処理は行いません。

6. 外部マスタ(標準)の用途

作成した外部マスタ(標準)はマスタ参照やコンボボックスの選択肢に利用できます。
外部マスタ(標準)を利用したマスタ参照の実現には、以下の作業が必要です。

・マスタ参照コンポーネントの登録
・フォームのフィールドに対してマスタ参照の設定

上記の詳細な手順は別紙「Aw05-フォーム設計・作成」の「マスタ参照設定」を参照ください。

7. 制限事項

7.1. 管理サイト以外からの操作について

外部マスタ(標準)は AgileWorks のユーザー領域に存在するため、管理サイト以外から確認することができますが、以下の制限事項があります。

公開APIからの操作について

公開 API から外部マスタ(標準)のテーブル定義を変更することはできません。
データの確認、追加、削除、更新は可能です。

データベースに直接接続しての操作について

データベースに直接接続した場合、テーブル定義の変更、データの更新など、変更が伴う操作はできません。
データの確認のみ可能です。